

青年学生よ、救国救世の先頭に立て！

2016 年全国成和青年・成和学生教育者研修会

「2016 年全国成和青年・成和学生教育者研修会」(主催・青年学生局)が3月1日から3日まで、宮崎台国際研修センター(川崎市)で開催され、全国から二世圏の教育を担当する成和青年部長や成和学生部長などの指導者約200人が集いました。研修会では、「良心革命を巻き起こし、救国救世の旗手となろう！」のスローガンのもと、VISION2020 勝利に向けて救国救世運動を牽引する青年学生の育成のため、2015 年度の取り組みに対する総括と2016 年度の方針発表を実施。大学生・青年の教育を担当する成和青年部長と、中高生の教育に責任を持つ成和学生部長が、最初から最後まで同じプログラムを受ける初の試みとなった今回の研修会は、天のみ旨を成す二世圏育成のために、お互いの役割と使命を共有し、意見を交わしながら一つになっていく重要な場となりました。



開講式では、田中富広副会長(兼 青年学生局長)が青年学生局における2015 年度の総括と2016 年度の戦略について語りました。

まず田中副会長は、2015 年度の主な取り組みと総括について、青年学生局の主要テーマである「連結」「伝道」「リーダーシップ」「社会貢献・国際貢献」に関する取り組みを報告。その後、2016 年度の方針として「二世圏連結強化」「青年学生伝道強化」「大学生活動活性化」「救国救世運動強化」を主要戦略として取り組むと述べました。

また、新たに二世圏活性化推進委員会の発足のほか、全国大学生1 万名大会の開催と世界平和総学生連合(SFWP)の構想が打ち出され、VISION2020 に向けて救国救世基盤の造成に向けたロードマップを示しました。

さらに、統一教育論に基づいた「段階別教育プログラム」の構築により、二世圏教育の一貫性を向上させ、総合的な人材育成の基礎固めを重視していく方針が発表されました。

青年学生局の2016 年度の方針と、各部(成和学生部・成和大学生部・成和青年部)による昨年度の



総括の発表を受けた上で、研修会1 日目は、地区ごとに段階別教育プログラムについてディスカッションを実施。中高生から青年学生、そして家庭青年までの一貫した教育プログラム構築の可能性について議論しました。

その後、徳野英治会長が、真の父母様御聖誕日と基元節3 周年記念式の一連の祝賀行事の中で感じられた内容を踏まえながら、特別講話を行いました。

その中で徳野会長は、今は真の父母観の伝統を立てる時であり、真のお母様の価値についてしっかり

と理解し、真の父母様と一体とならなければならぬと強調。その上で、一人ひとりが神氏族メシヤの勝利に向けて取り組む重要性を訴えました。

2 日目は、成和手帳活用講座、成和学生部・成和大学生部の方針と戦略、2015 年度新成和青年の連結報告がありました。

引き続き、役職や地域を超えてグループをつくり、教育における課題解決のためのディスカッションが行われました。

また、成和青年部長・成和学生部長に就いて1 年

未満のメンバーを対象に、新任者研修会を並行して実施。夜には、救国救世運動を展開している国際勝共連合の大学生遊説隊「UNITE」の活動報告を受けた上で、成和学生部向けの政治教育コンテンツ「政治の学校」のVTR を視聴し、高校生以上の主権者教育の重要性を確認しました。

3 日目は、救国救世運動推進のためのディスカッション行い、成和青年部の方針と戦略、各種活動報告(広報局、祝福教育部、国際宣教部、UPeace 等)が行われました。(3 面に続く)



①報告を行う山本勝道 CARP 会長
②真剣に講義を聴く参加者
③④活発なディスカッションも行われた



【参加者の感想】

■今回の研修会を通して、今の日本の状況が深刻であることを目の当たりにし、「二世青年が立ち上がらなければならない！いつまでも一世の背を見てはいけい」と思いました。「伝統」と「連結」、この二つを宋龍天総会長と田中副会長が強調されていましたが、地区・教区・教会ごとに、それぞれの目標を立てたので、まずはその目標を勝利するため、今回学んだ内容を皆で共有し頑張っていきます！（成和学生部長・女性）

■今回の研修会は、成和青年・成和学生の教育担当者が共に研修を受けるということが画期的で、もっと前にやるべきだったと感じました。やるべきことは連結と伝道。何よりも教育であり、青年学生を救国救世の先頭に立てることであると感ずます。本当の意味で、国家と世界のために勉強し、訓練を受け、具体的に家庭を通して愛を完成させる。そのような二世圏・家庭教会づくりを成していきたいと思います。（副教会長・男性）

■今回の研修会で、私たちが歩むべき基本路線を示して下さい決意させられました。一番の問題は、自分自身であったことを痛感させられた3日間でした。二世たちを本当に信じているか。私に働かれ、私を信じてくださる神様と真の父母様を本当に信じているか。私から変わらなければ何も変わらないことを痛感しました。VISION2020 勝利に向けて、救国救世に向けて、伝道・連結のために命を懸けて歩んでいきます！（成和青年部長・男性）

閉講式では、今回新たに任命を受けた副教会長及びトップガンメンバーが壇上に立ち、「サランチャジャ、インセンチャジャ（愛を探して、人生を探して）」を全体で歌う中、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長と李海玉夫人をお迎えしました。

まず全体を代表して、2名の研修生が決意表明。続いて、李海玉夫人が、私たちの目指す目標は高く、やらなければならない事は本当に沢山あるけれども、一つひとつ目標を定めながら確実に歩いていくことの重要性について、国際大会で優勝したマラソンランナーの走り方を紹介しながら分かり易く説明し、研修生を激励しました。

宋龍天総会長は講話で、VISION2020 成就のための戦略と2016年度の活動指針を説明しながら、救国救世運動を引っ張っていく青年学生圏に対し、大きな期待感を表明しました。

最後に、佐野忠國成和大学生部長の発声で億万歳を行い、研修会は閉幕。参加者たちは2016年度の新たな出発を成していきました。

真のお母様のみ言

“皆さんは幸福な人々です”

2月15日 韓国・清心国際青少年修練院



以下のみ言は2月15日、韓国・清平の清心国際青少年修練院で行われた「日本公職者新春研修会」において、真のお母様が語られた内容を日本語に翻訳し、一部を抜粋したものです。

* * *

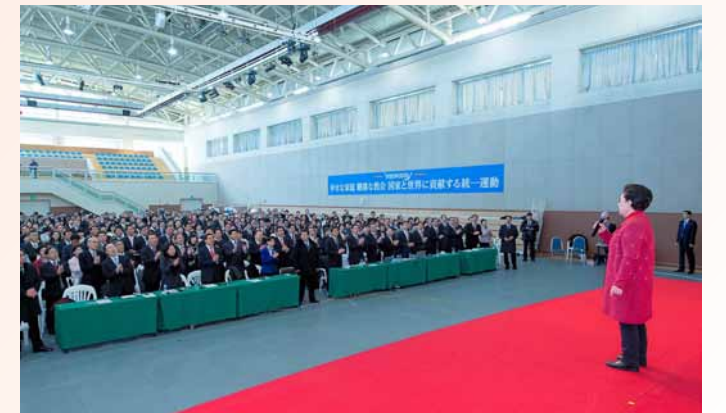
2020年は、私たちの今の夢、真の父母様の夢、天の父母様の夢を必ずや成し遂げる年にしなければなりません。分かりましたか。（「はい」）（拍手）

そのためには今から、真の父母様の生きた歴史を、皆さんが世の中に向かって証しなければなりません。今、世界的に起こっていることも、この国が直面していることも、人間の力では収拾できないのです。国連が一つの世界を構想し、努力しましたが、できないでしょう。中心を立て、神様に侍らなければならないのです。人間だけではできません。答えを見つけれないのです。

ですから、すべての中心が真の父母でなければなりません。墮落した世界圏は、新しい生命、血統、それから何を授けなければなりません。真の愛です。分かりましたか。

このことを嫌がる国や人がいてはいけません。（嫌がり、拒絶すれば、）それは偽物です。

これ以上ない大きな宝物を持っている皆さんは、堂々としていなければなりません。分かりましたか。（「はい」）ここには婦人代表もたくさん来ているとのことで



すが、特に皆さんが責任をしっかりと果たさなければなりません。真の父母様の在世時、私が生きている間に、「地上天国はこのような姿である」と、示してあげなければなりません。何のことが分かりますか。（「はい」）

「天地鮮鶴苑」を通して、世界万民が信仰の祖国、神様の故郷に、水の流れるごとく訪ねてくるようにならなければなりません。そのような場所があるべきでしょう？ それを今、私が計画し、成し遂げようと思います。そのような点で、特に日本がエバの使命を果たさなければなりません。蕩滅復帰しなければならないでしょう？

分かりましたか。ですから、大変だと考えてはいけません。皆さんは、私がいるという事実がどれほど重要で、ありがたく、感謝なことを毎日、胸で、皮膚で感じながら、責任を果たすために全力投球しなければなりません。分かりましたか。（「はい」）そのようにしますか。（「いたします」）（拍手）

ありがとうございます。皆さんが苦勞している間、私もじっとはしていません。私は天一国の完璧で堂々とした実体の姿を、今一つ一つ描き、つくり上げていっています。ですから、皆さんは幸福な人々です。そのことを忘れないでください。（「はい」。）

それでは、立ち上がって、決意を込め、「サランヘ（愛しています）、お父様、お母様、父母様」を一緒に歌いましょう。

東日本大震災から 5 年、 私たちは教訓を忘れない

UPeace これまでの取り組み



3月11日で東日本大震災の発生から5年を迎えました。震災を契機に発足した家庭連合平和ボランティア隊（UPeace）は、家庭連合の青年・学生たちで構成され、真の父母様の「他のために生きよ」という教えを実践しながら、被災地でのボランティア活動を継続してきました。（UPeace キャプテン 加藤善斐^{としひと}）

震災発生と復興支援の開始

2011年3月11日午後2時46分18秒に発生した東日本大震災は、日本での観測史上最大規模（マグニチュード9.0）の地震でした。その影響で、津波や火災、原発事故、停電、液状化現象など多岐にわたる被害が発生し、死者・行方不明者は1万8千人以上、全壊又は半壊した建物は約40万戸に上りました。

被災地では、消防や警察、自衛隊、自治体、NPOなどが復興に向けて様々な支援を進める中、家庭連合も災害ボランティアチームとしてUPeaceを結成、今日まで復興支援活動に携わってきました。

東北被災地へ123陣まで派遣

2011年3月23日にボランティアチームの第1陣が被災地に派遣されました。2016年3月15日現在、東北へのチーム派遣は第123陣まで終了し、参加者は累計で2000人以上に達します。教会の青年たちが主体

ですが、中高生や壮年のメンバーも参加してきました。また海外からも、ヨーロッパの原理研究会（CARP）メンバーや、アメリカの青年メンバーなども加わりました。

2013年からは、東北以外の災害ボランティアの取り組みもスタート。13年から14年にかけては、伊豆大島の台風被害支援を実施し、14年には広島土砂災害支援、15年には茨城・栃木の大雨洪水被害支援を行いました。

ニーズに合わせたボランティア活動

震災直後の活動内容は、がれきの撤去や泥出し、側溝掃除、家財道具の運搬などの片付け作業がメインでした。がれきの撤去が落ち着いてくると、次は公園や集会所作り、田畑の再生、引っ越しの手伝い、被災した場所の清掃活動など、生活再建のための活動に変化していきました。

さらに農業支援や漁業支援、イベントの手伝い、支援物資の整理など、その地域のニーズに合わせた活動を実施。地域によっては、鮮鶴合唱団やWYC（東京の青年による聖歌隊）によるコンサート、天父報恩鼓の公演などの慰問活動も行っています。

活動する地域によって活動内容は様々です。これまでの活動場所は、累計で600カ所以上に達します。



復興の進捗に地域差も

被災地は、どの地域も復興に向けて力強く前進していますが、その一方で復興の進捗に地域差が生じていることも事実です。

例えば、がれきが片付いて更地になった地域もあれば、再開発事業で駅や鉄道が整備され、新しい街ができて始めている地域もあります。一方で、福島第一原子力発電所周辺のように震災直後の光景がそのまま残っている場所もあります。

全体としては、一部の地域を除いて震災前の状態に少しずつ戻ってきています。

震災記憶の風化を懸念する声

現地の人から話を聞く中で、ここ1～2年で多いと感じるのは、震災の記憶が風化することを心配する声です。「街が復興するのを見ると安心しますが、それと同時に風化も進んでいるように感じるのが不安で、複雑な心境になります」「被災していない地域の人と話すと、震災に対する意識の差が、自分（被災者）と比べてますます拡大しているように感じ、寂しくなります」といった声です。

ここで言う「風化」とは、記憶や印象が月日とともに薄れていくことを言いますが、それは単に「忘れること」を意味するものではありません。大勢の人が犠牲になった



- ① 2011年7月、宮城県石巻市内の家屋の片づけを行うメンバー
- ② 11年10月、石巻市内で側溝の清掃を行うメンバー
- ③ ヨーロッパの学生たちも被災地支援に参加（11年10月、石巻市）
- ④ 花壇をつくる地域イベントでお手伝い（12年6月、石巻市）
- ⑤ 「千葉鮮鶴合唱団」が、石巻市内の3カ所の施設で慰問コンサート（12年7月）
- ⑥ 海岸沿いのがれきを撤去（12年11月、宮城県東松島市）
- ⑦ クリスマス会の盛り上げにも一役買う（14年12月、石巻市）

という事実、震災から得た教訓などの“忘れてはいけないものを忘れること”を意味します。

震災の教訓を伝えたい

被災者の多くは、被災地域以外からやって来た若者たちに対し、震災の教訓を伝えたいという想いを抱いています。

「食料の備蓄は、本当に大切だよ」

「車のガソリンは、半分以上になったら給油する癖をつけたらいいよ」

「寝室の家具は、転倒防止グッズで固定すると安心だ」

「地元の防災訓練には、できるだけ参加した方がいいよ」

「普段の何気ない日常生活は、実は尊いことなんだよ」

こうしたことを身に染みて感じた人たちの言葉には重みがあります。UPeaceメンバーたちも、被災者の生の話を聞きながら、多くのことを学んできました。

震災から5年、いま大切なこと

震災を単に忘れないというだけでなく、震災を通して一人ひとりが学んだことを人生に役立てることで、被災者の犠牲を無駄にしないことが大切だと思います。

東日本大震災から5年が経つこのとき、静かに振り返ってみてはいかがでしょうか。

共産圏にみ言伝え、私たちの為に 祈られた真の父母様

先駆者の犠牲と奉仕の精神伝える聖地ツアー企画 ユラ・ライダ・チェコ共和国UPF事務総長に聞く

今年2月の式典で上演されたミュージカルは、欧州の旧共産圏における宣教活動「バタフライ（蝶）作戦」がテーマで、聴衆に深い感銘を与えました。チェコでは、バタフライ作戦の舞台となった現地をめぐる聖地ツアーを企画しています。担当者のユラ・ライダ・チェコ共和国UPF事務総長（65）にインタビューしました。（聞き手＝鴨野守広報局長）



①チェコスロバキア（当時）で殉教したマリア・ジブナの遺影
②インタビューに答えるユラ・ライダ・チェコUPF事務総長
③現地メンバーたちと昼食を楽しむマリアさん（手前から4人目。1973年、チェコスロバキア・オストラヴィツェ）
④⑤ミュージカル「天一国蝶の夢」のワンシーン

——あなたの生い立ちから聞かせてください。

私はスロバキアのブラチスラバで育ちました。私の妻もスロバキアです。今は、チェコのブラハに住んでいます。

私は1971年に統一教会に入教した初期メンバーの一人です。ブラチスラバ（現在のスロバキアの首都、当時はチェコスロバキアの中心都市のひとつ）に、最初の宣教師であるドイツの女性メンバーが来たのは1968年8月30日のことです。彼女の名前は、エリミエ・シュテベルです。国境を超えて、オーストリアのウィーンからブラチスラバに入りました。

1968年当時、「ブラハの春」の反動があったことを理解しておく必要があります。ブラハの春には大きな希望がありました。共産主義には希望はありませんでした。しかしその年の8月に何が起きたかと言うと、ブラハが軍隊によって占領されてしまったのです。そして人々は絶望と失望に陥ってしまいました。

その年の8月20日、21日に（ソ連軍を中心とする）軍隊がチェコスロバキアに侵攻してきましたが、そのよ

うな深刻な状況にもかかわらず、その70日後、勇敢な姉妹が国境を超えてチェコスロバキアに真の父母様のメッセージをもたらすために入ってきたのです。

バタフライ作戦は1980年から本格化しますが、その前の73～78年にかけて東欧でメンバーが収監されました。後に、米国におられた真の父母様は、朝早くから聖地で私たちのために涙しながら祈っておられたと知りました。刑務所に送られた私たちのために。

誰もがマリア・ジブナのように殉教する可能性があったのです。私も死んでいたかもしれません。何が起きてもおかしくない状況でした。真の父母様が私たちを救って下さったのです。

——今回のミュージカルをご覧になった感想は。

まず真の父母様に感謝申し上げます、特に真のお母様に。なぜなら、お母様はチェコスロバキアの最初のメンバー、そして東欧への最初の宣教師を、昨年の基元節に表彰して下さったからです。そして昨年5月には欧州宣教50周年に欧州に来て下さいました。これが第一のポイントです。

次に、真のお母様は今回のミュージカルを指導され、私たちに大きな感動を与えて下さいました。もっとも、ストーリーは脚色され、歴史的事実と違う点もありました。でもそれは気にしません。それは韓国の芸術家が表現したいことがあるからです。

ミュージカルは、私たちの心に大きな感動を与えてくれました。泣きました。それは私の45年間、心の奥底にあった経験を開かせてくれたからです。ですからミュージカルの内容をととても尊重しています。実は、私の息子がミュージカルに出ていたことも、私の感動をさらに高めてくれたと思います。息子は何かを相続したことでしょう。

韓国の芸術監督は、私たちが経験したことを想像できないことと思います。それでも私たちの精神をとらえることが出来ました。ですからその点をとても尊敬しています。

——チェコの聖地ツアーを通じて、参加者に見てほしい、感じてほしいポイントは何でしょうか。

第一の目的は青年の教育ですが、私たちの活動の基礎となっているのは犠牲と奉仕であることを一般の人々に伝えることです。これを忘れたら、私たちの活動は衰退することでしょう。それがまさに真の父母様の人生だからです。

二つ目は、初期メンバーが創った基盤を、私たち、そ

して後の世代のメンバーも忘れてはならないということです。初期メンバーの基盤の上に私たちは立っているのです。それを忘れてしまえば、伝統が立ちません。希望もありません。

三つ目は精神の復興です。初期メンバーの精神復興はすさまじく、一人ひとりが強い精神力を持っていました。共産主義ですら私たちの精神と比べれば脆弱であり、私たちの伝道への情熱を止めることはできませんでした。警察も私たちの伝道を止めることはできませんでした。私たちは彼らを圧倒していたのです。聖霊に満たされ、エネルギーに満ち溢れ、再臨主と共にあったからです。初期時代の精神は驚くべきものでした。

——ツアーはいつごろ開催されますか。

5日～7日ぐらいの観光ツアーを考えています。内的には巡礼。外的には観光。ブラハやウィーンなど美しい場所の観光を検討しています。参加された方が本当に満足するような最高のものを提供したいと考えています。

真の父母様は、共産主義国に対しても、み言をもたらして下さいました。それは奇跡です。統一原理、真の父母様の教えが、神の存在を否定する共産主義国に来るということは想像できないことです。共産圏の解放、これはまさに奇跡です。これは、神様と真の父母様以外にできないことです。それゆえ、聖地ツアーは、神と父母様を証するものなのです。

家庭連合時代が到来、2016 年を希望の年に

宋総会長が 5 地区、宮城教区で食口を激励



3月に入り、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長ご夫妻は第5地区（東京）と宮城教区を相次いで訪問、集まった食口たちを激励しながら、真の父母様の愛を届けました。



3月4日（金）午前、東京の新宿家庭教会で第5地区（東京）の「3月度責任者全体出発式」が行われ、約350人が集まりました。

金満辰地区長の挨拶の後、李海玉総会長夫人が、エジプトの聖人シモンの信仰が山を動かす奇跡を起こしたという逸話を紹介しながら、「常識ではあり得ないことが信仰の世界では起こり得るのです。み言を持った者の信仰と、持たない者の信仰は異なります。祝福を受けた私たちは、これ以上何が必要でしょうか」と語り、参加者を激励しました。

続いて、宋龍天総会長は「私たちがいかに幸福な者であるかを理解してください」と強調。「真のお母様の侍墓3年路程の勝利の土台の上に、家庭連合時代が発しました。今年は神氏族メシヤの基盤を通した救国救世基盤造成の元年です！毎日感謝の生活を成しながら、2016年を希望の年とし、母の国の使命を果たしましょう！」と呼び掛けました。



3月6日（日）、仙台家庭教会に宋龍天総会長ご夫妻



①情熱的にメッセージを語る宋総会長（3月4日、新宿家庭教会）
②歌とダンスで会場を盛り上げる天馬家庭教会 CIG 婦人メンバー（3月4日、新宿家庭教会）
③決意を表わす宮城教区のメンバー（3月6日、仙台家庭教会）

をお迎えし、「東日本大震災5周年 宮城教区3月度勝利特別礼拝」を行い、他の教会でインターネット中継を視聴した110人を含め、約380人が参加しました。

記念礼拝に先立ち、全体で東日本大震災の犠牲者に黙祷を捧げる中、仙石塩釜家庭教会の副婦人代表が追悼の手紙を朗読すると、参加者の多くが涙を抑えることができませんでした。

安榮燮第2地区長の挨拶に続き、李海玉総会長夫人が100万仙台市民に対する救いの心情について短いながら深いメッセージ。

また、宋龍天総会長のメッセージを通じ、参加者は家庭連合時代の到来を実感、大いに復興しました。

会場を後にする直前までメンバーのために精誠を尽くす宋総会長ご夫妻の愛に酔いしれながら、参加者たちは全国を牽引する第2地区、宮城教区になろうと決意を新たにしました。

【参加者の感想】

■今は伝道でも奇跡が起き始めており、希望を感じます。これまで積み重ねてきた食口たちの精誠が報われ、大きく花開くときが近づいていることを実感しました。（東京教区・男性）

■宋総会長ご夫妻から真の父母様の香りを感じました。宋総会長は、御父母様と共に歩んで来られた自信と確信に満ち溢れていました。「何代かかろうと絶対やる」という信念が、後代に受け継がれていくのだと実感しました。（仙台家庭教会・女性）

神氏族メシヤ勝利に向けて善の競争を

徳野会長、秋田教区と10地区を巡回

徳野英治会長は2月末から3月はじめにかけて各地を訪問し、真の父母様の御聖誕日及び基元節3周年の関連行事で真のお母様が語られたみ言の内容を中心に、73億人類救済の先頭に立たれるお母様のご心情を訴えました。ここでは、秋田教区と10地区（四国）での巡回の様子を紹介します。



2月28日（日）午前、秋田家庭教会に徳野英治会長ご夫妻をお迎えして特別礼拝が行われ、秋田、横手両家庭教会からおおよそ100人の教会員が参加しました。

最初に、安榮燮第2地区長が「今日は、天一国4年を迎えて全国第1号の会長集会です」と歓迎の挨拶。花束贈呈に続いて、徳野久江会長夫人が登壇し、「2020年までに天一国を必ず実現すると決意して歩んでおられるお母様と完全に一つとなって歩んでいきましょう！」と呼び掛けました。

徳野会長は説教の中で、「神氏族メシヤの勝利による救国救世基盤の造成」が今最も願われているとした上で、自らが教会のイベントに親族を動員したエピソードを紹介しながら、氏族伝道の意義や勝利の秘訣を語りました。

特別礼拝は、徳野会長ご夫妻の祝祷の後、全体で億万歳四唱を行い、終了しました。

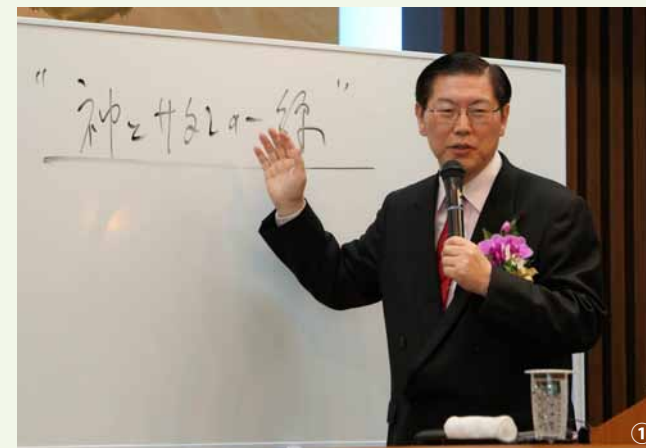


3月5日（土）午前、第10地区の「3月度出発式」が高松家庭教会（香川県）で行われ、地区全体から責任者約260人が集まりました。

代表報告祈禱の後、北谷真雄地区長は「今回四国に異動して来ましたが、この地で死生決断、全力投球してまいります」と挨拶。

歓迎の花束贈呈に続き、徳野英治会長がメッセージを語り、「神氏族メシヤは、全祝福家庭に課せられた普遍的宿命です。今日のこの日をもって、皆さんの氏族復帰に本腰を入れて決意してください」と強調。「私自らが氏族伝道の先頭に立って歩みます。共に善の競争をしましょう。次に皆さんの前に立つ時は、新しい伝道の証しをします」と力強く宣言しました。

徳野会長の決意表明に触発され、参加者全体が一つになって神氏族メシヤ絶対勝利の決意を固めて出発する場となりました。



①メッセージを語る徳野会長（3月5日、高松家庭教会）
②秋田家庭教会前で（2月28日）
③幼児と小学生も加わり愛らしい歌を披露した3家庭
④徳野会長のメッセージに拍手を送る参加者（3月5日、高松家庭教会）

家庭・地域に絆を取り戻し、 国や世界に拡大していこう！

埼玉で「第10回天一国の希望 Sunday Service」



- ①説教をする五十嵐政彦第3地区長
- ②「母なる祖国に祝福あれ」を合唱する大宮家庭教会聖歌隊「ピースフルクワイア」
- ③サンデーサービスのために結成されたバンド「S.S.B」が会場を盛り上げた
- ④フィナーレでは出演者と会場全体が一体となって賛美

「第10回天一国の希望 Sunday Service」が2月28日、埼玉県内の会場で開催されました。大宮家庭教会が昨年5月から「天一国の文化創造」を目指して毎月行っているもので、10回目となった今回は、西埼玉教区の他に5つの教会から合計約600名（うち新規・再復帰40人）が参加しました。

オープニングは、44人のメンバーから成る大宮家庭教会聖歌隊「ピースフルクワイア」による『母なる祖国に祝福あれ』の合唱で、会場いっぱいに美しいコーラスが響きわたりました。

敬礼と家庭盟誓の唱和、鳴澤健一大宮家庭教会長の代表報告祈禱に続き、五十嵐政彦・第3地区長が説教を行いました。

五十嵐地区長は、救国救世について語りながら、日本の「少子高齢化」問題の原因や現状を解説。その上で、「世界平和統一家庭連合は、国境・人種が違ったとしても、親として神様の下に一つになれる核心を持っています」と強調し、「家庭・地域に絆を取り戻し、国・世界に拡大していきましょう」と締めくくりました。

説教の後、聖歌隊による「感謝します」の美しい歌の賛美があり、続いて大宮家庭教会の4億双第4次の祝福を受けた祝福家庭の証しビデオの上映がありました。2歳の子供と一緒に登場したこの家庭は、祝福の証しや家庭連合の素晴らしさを語り、その初々しい姿に参加者から暖かい拍手が寄せられました。

フィナーレでは、全体で「響けこの賛美」を歌いました。アンケートの中には、今までの中で、今日のサンデーサービスが一番良かったという感想もありました。

【参加者の感想】

■たくさんの方が来られ、オープニングから感動しました。伝道して伝えていきたい気持ちになり、家族復帰にも気持ちが沸き上がってきました。愛があふれていて、善霊に満ち溢れていたことを感じました。歌一つ一つの歌詞が心に響き、とても心に残りました。（T. Kさん）

■説教は、統計なども用いられていたため、非常に理解しやすかったです。礼拝全体では、賛美が多くて、皆さん笑顔で見ていて嬉しかったです。フィナーレの一体感が良く、とても感動しました。（N. Nさん）

救国救世の基盤造成に向けて本格的に出発

9地区壮年研修会に2300人が参加

3月6日、大阪家庭教会礼拝堂に徳野英治会長をお迎えし、「第9地区壮年研修会」が行われました。研修会は、大阪家庭教会を中心に地区内の全20教会をネット中継で結び、壮年約600人をはじめ、婦人1500人と青年200人、合計約2300人の教会員が参加しました。

歓迎の挨拶で朱鎭台第9地区長は、1月末に行なわれた全国壮年部長集會を蘇生期、今回の研修会を長成期と位置づけながら、全国に先駆けて徳野会長を迎えて研修会が開催される意義を述べました。

映像上映に続き、徳野会長がメッセージを述べ、2月の祝賀行事における真のお母様のみ言をいくつかのポイントに絞って紹介。お母様の中にお父様のリーダーシップが現れて完全一体化されている様子や、神の国創建に対するお母様の切実なご心情について語りました。

昼食後は、9地区の伏谷修伝道教育部長と朝井久雄渉外部長が、それぞれ「神氏族メシヤの責任完遂」と「救国救世のビジョンと思想」の講義を行いました。

その後、宋龍天総会長のメッセージ映像を視聴。VISION2020の夢を実現するための本質的な課題が「神

氏族メシヤ使命成就と救国救世基盤造成」であり、それを成すためのロードマップを確認する時間となりました。

研修会の総括で朱鎭台地区長は、文孝進様の聖和8周年（3月17日）を迎えるまでに全祝福家庭が神氏族メシヤ勝利のための43家庭名簿を奉獻し、家庭集會を中心にして救国救世の基盤造成に向かって前進することを強調。

最後に、地区の代表壮年部長を中心に全参加者が「救国救世宣誓」を高らかに唱和し、研修会が締めくくられました。

参加者からは、「今回の研修で、救国救世基盤造成に向けた本格的出発の自覚を促されました。今回学んだ内容の骨子を地元教会で伝えながら、活動の基礎となる“勢い”を失わないようにしていきたいと思います」（和歌山北家庭教会・壮年）、「婦人達の力だけでは限界があり、夫婦が一つとなって力を合わせて取り組まないと難しいと思います。私自身が真理を伝えたいという強い気持ちを持てるかが重要です」といった感想が寄せられました。



- ①第9地区で行われた壮年研修会の参加者（大阪家庭教会）
- ②メッセージを語る徳野会長
- ③和歌山北家庭教会でネット中継を観る参加者
- ④西大阪・吹田家庭教会でも多くの教会員が参加